

交通まちづくり調査におけるサイレント層の意識と特徴*

Silent Group's Consciousness and Characters in "Transportation in Community-based Town Planning"*

小嶋文**・久保田尚***

By Aya KOJIMA**・Hisashi KUBOTA***

1. 研究の背景と目的

交通計画の実施には、多くの人による合意形成が必要とされる。そのような中で「意見を言わない人々」、いわゆるサイレント層が問題となることがしばしばある。住民参加型の活動やアンケートなどに回答しない人について、「進んでいる計画に賛成だから声を上げない」という考えがなされることがあるが、実際には賛成する人が多いとは言えない場合¹⁾、計画段階でサイレントであった人々が計画実施後に初めて反対意見を表明するという問題も起こることがある。このような事態では、計画の全面見直しなど、社会的に多くの費用が発生することとなるため、サイレント層の適切な取り扱いが求められると言える。

以上のような背景から、本研究では、交通環境改善のための対策が検討されている地区において、実施に向けた住民意識調査に回答しない人に関する検討を行う。住民意識調査は、具体的対策案への賛否を問う内容であり、それらの案への意見と回答態度の関係について知見を得ることを目的とする。

本研究におけるサイレント層の定義は、小嶋ら¹²⁾によるものと同様とする。すなわち、アンケート調査の期限内回答者を非サイレント層、期限内未回答者をサイレント層と定義し、督促による回答者の意見をサイレント層の一部からの意見として検討する。

2. 調査対象地区の概要

(1) 観光都市の交通問題とその対策

今回調査対象とする川越一番街とその周辺の地区は、

歴史的な街並みや社寺が残る観光地としても知られる地区である。観光都市には、しばしば特有の交通問題が見られ、多数の観光客の来訪による道路の交通混雑はその典型である。このような都市では、交通問題に対して、観光業の活性化・観光客と地区住民の利便性・歴史的な資産の保全を両立するような交通計画が必要とされる。例えば世界遺産に指定されている白川郷では、世界遺産地区内への自動車進入を規制すると共に、駐車場の予約実験やパーク&バスライド施策など車利用者の利便性を確保する施策を行っている³⁾。また、鎌倉ではパーク&ライドや電車・バスの乗り放題チケット（環境手形）の販売が実施されている⁴⁾。しかし、両都市とも提案された施策の内本格実施に至ったものは一部である。このことから、先に挙げた観光と交通の利便性のバランスを取るような交通計画の実施には、困難な合意形成が必要とされることがうかがわれる。

(2) 調査対象地区の概要

本研究で対象とする地域は、埼玉県川越市の中心部に位置する「川越一番街（以下、一番街と呼ぶ）」周辺の地区である（図1）。一番街は、川越市と入間郡を南北につなぐ県道（片側一車線）に沿って430mに渡り商店街が続く通りで、明治時代に建てられた蔵づくりの街

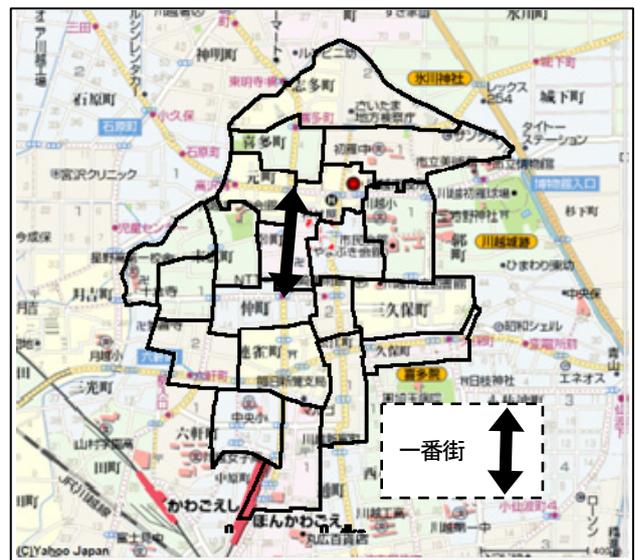


図1 本研究の対象地区

*キーワード：意識調査分析、市民参加

**学生員、工修、埼玉大学大学院理工学研究科、
日本学術振興会特別研究員DC、
(埼玉県さいたま市桜区下大久保255、
TEL/FAX 048-858-3554、
E-MAIL kojima@dp.civil.saitama-u.ac.jp)

***正員、工博、埼玉大学大学院理工学研究科

並みが残ることから、川越市の主要な観光地の一つとなっている⁵⁾。週末や連休には多くの観光客が訪れるため、道路には歩行者と自動車が接触しそうになる場面がしばしば見られるなど、歩行者にとって大変危険な状況となっている。このようなことから、一番街における交通安全対策は喫緊の問題となっており、現在、市・住民・交通事業者・大学からなる検討委員会により自動車交通の抑制による歩行空間拡幅の対策案が提案されている。

一方で、一番街のある県道は川越市を南北に抜ける主要な路線として、多くの車に利用されるとともに、JR及び私鉄の鉄道駅と各地を結ぶ路線バスの経路ともなっている。2007年に川越市と埼玉大学が共同で行った交通調査からは、休日に一番街を通行する車両の8割弱が、一番街には用事のない、いわゆる通過交通であることも明らかになっている。一番街と共に、周辺の幹線道路も混雑が多く発生しており、歩行者の安全確保に向けた一番街の自動車交通の抑制には、周辺の交通状況への配慮が求められている。

(3) 対象地区における交通まちづくり活動

川越一番街周辺の交通環境改善に向けて、地元では市が中心となって「北部中心市街地交通円滑化方策検討委員会（以下、検討委員会）」が設置され、議論を行っている。検討委員会のメンバーは、川越市、川越市警察、周辺の自治会役員、交通事業者、そして埼玉大学である。

検討委員会では、一番街及び周辺道路の一方通行化や通行止め（歩行者天国）の実施による歩行車空間の確保が提案され、議論されている。検討に当たっては、交通調査及び複数の将来案についての交通シミュレーションが実施され、周辺地区への影響などが比較検討された。その結果、一方通行化、通行止めそれぞれについて、周辺道路への影響が最も小さい案1つが選ばれ、社会実験の実施が検討されることとなった。そこで、それらの案の社会実験実施の是非、および実施内容に関して、検討委員会参加者以外の意見を聞くことを目的として、住民意識調査が実施された。この調査の概要について、次章で詳しく述べることとする。

3. 意識調査の概要

(1) 住民意識調査の調査内容

実施された住民意識調査の内容は、現在の一番街の

交通状況に関する認識、一番街を一方通行にして歩行空間を拡幅する案への意見、一番街を歩行者天国にする案への意見、そしてこれらの交通規制変更案を組み合わせた複数の将来案それぞれへの賛否、等である。

(2) 調査実施概要

住民意識調査の対象地区は、検討委員会に参加している21自治体とした。調査対象地区内の全世帯主を対象とし、住宅地図を用いて全戸に調査票を一部ずつ配布した。対象者を世帯主に限った理由は、費用の制約によるものである。調査票の配布は研究室の学生によるポスティングで実施し、回収方法は郵送とした。回収用に、「料金受取人払い郵便」の返信用封筒を同封した。

調査票に明示した回収期限後、返信がなかった全世帯主に対して督促を実施した。この督促では、初回配布時に配布したものと同様の調査票に、返信を再度依頼する文章を同封し、配布回収方法は初回の配布と同様とした。表 1に初回配布、督促それぞれの配布回収概要を示す。次章では、アンケート調査の結果について述べる。

4. 一番街の交通に対する住民の意見

(1) 現在の一番街の交通環境に対する認識

住民意識調査の結果について、その概要から見ていくこととする。図 2は、現在の一番街の交通環境についてどのように感じているか、という問いに対する回答である。「良い」又は「やや良い」と回答した人は合わせて6.4%であり、「あまり良くない」又は「良くない」と回答した人は合わせて81.2%となっている。この結果から、回答者の8割以上が、現在の一番街の交通状況について良くない認識を持っていることがわかる。

図 3は現在の一番街で歩行者が安全に歩けるかと思うか、という問いに対する回答であるが、「危険」、「やや危険」と回答する人が合わせて78.7%となっており、多くの回答者が一番街を歩くことに危険感を持っている。一方、図 4は一番街での車やバスの通行しやすさに関する質問への回答であるが、「通行しにくい」、「やや通行しにくい」と回答している人が84.9%に上っており、自動車の立場からも一番街を通行しづらいと考える人が多いことが分かった。

図 5は、一番街の周辺道路が我慢できないほど混雑していると思うか、という問いを平日・休日別に聞いた

表 1 アンケート調査配布回収概要

初回アンケート調査			督促調査			
配布日：2009/2/1(日)、2/2(月)			配布日：2009/2/28(土)、3/1(日)			
回答期限：2009/2/9(月)			回答期限 2009/3/7(土)			
配布数	期限内回答数	期限内回答率	督促回答数	督促回答率	最終回答数	最終回答率
6077	1740	28.6%	599	13.8%	2339	38.5%

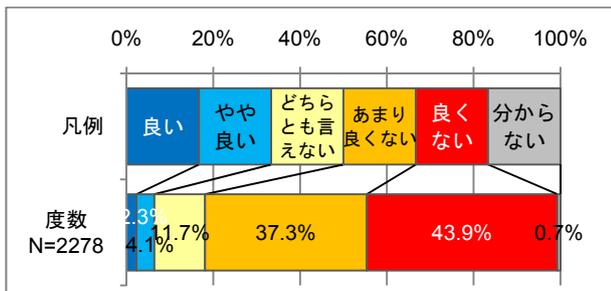


図 2 現在の一番街の交通状況に対する認識

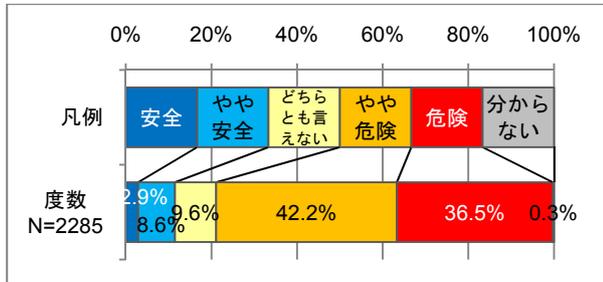


図 3 現在一番街を歩行者が安全に歩けると思うか

回答である。平日については「許容できない」あるいは「あまり許容できない」と回答しているひとが合わせて33.9%であるのに対して、休日については同様の回答が65.9%と増加している。特に「許容できない」と回答する人が7.2%から33.4%となっており増加が著しい。観光地という特性から、休日における混雑に不満を持つ人が多いと考えられる。

(2) 5つの将来案に対する意向

次に、一番街の交通規制を変更する4つの案に「現状のまま」という項目を加えた5つの将来案について、意見を見ていく(図6)。交通規制変更の4つの案とは、「毎日、日中は『歩行者天国』にする」、「休日のみ日中を『歩行者天国』にする」、「平日は終日『一方通行』」休日はこれに加え、日中を『歩行者天国』にする」、「毎日終日『一方通行』にする」というものである。

5つの将来案の中で最も「賛成」、「条件付き賛成」が多いのは「休日のみ日中を『歩行者天国』にする」で、合わせて70.5%である。一方、最も「賛成」、「条件付き賛成」という意見の割合が少なかったのが「毎日、日中は『歩行者天国』にする」という案であり、このように回答した人が27.1%である。この案については、55.6%の人が「反対」と回答している。「現状のまま」案については「賛成」、「条件付き賛成」と回答する人が32.0%、「反対」と回答する人が38.2%であった。

5. 回答行動と意見の関係

(1) 現在の一番街での危険意識と回答行動

ここからは、アンケート調査への回答行動と、調査内容に対する意見の関係について検討していく。まず、

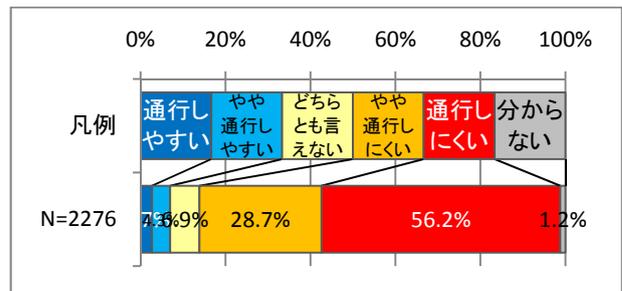


図 4 現在一番街を車やバスが通行しやすいと思うか

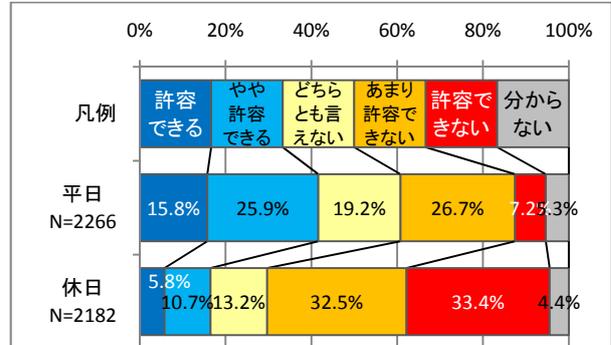


図 5 周辺道路が我慢できないほど混雑していると思うか

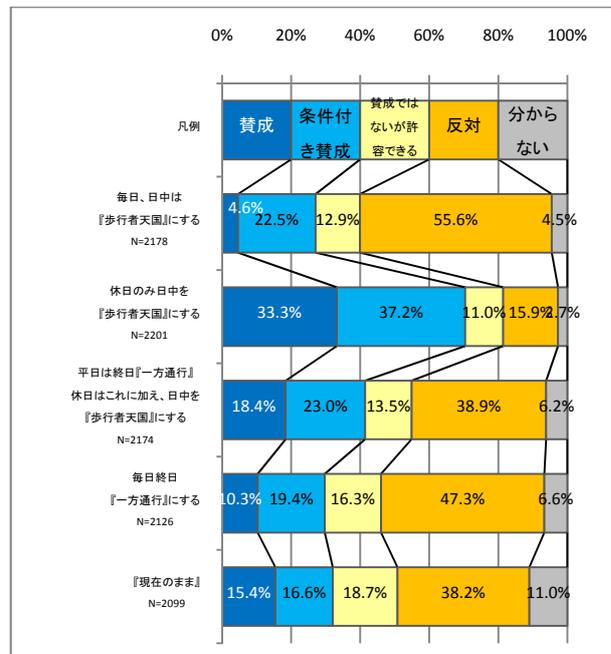


図 6 5つの将来案への意向

期限内に調査に回答した人と督促後に回答した人について、現在の一番街に対する認識を比較した。図7は現在の一番街の交通環境について、期限内回答者と督促後回答者でその認識を比較したグラフである。どちらのグループでも「良くない」、「やや良くない」と回答した人が8割程度であるが、期限内回答者では「良くない」と回答した人が47.2%であり、督促後回答者の34.3%に対して有意に大きい割合になっている($\chi^2 = 29.3, p = 0.00$)。この結果からは、現在の一番街の交通環境が良くないという思いが強い人ほど、今回の調査に積極的に回答したことが考えられる。

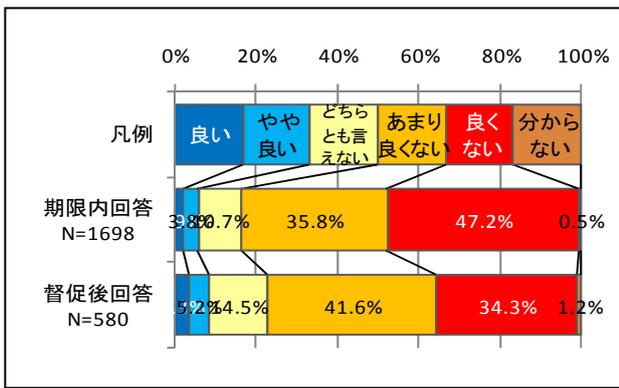


図 7 期限内・督促後回答者の現在の一番街への認識の比較

(2) 地区の回答率と居住地の関係

次に、回答行動と居住地の関係を見ていく。図 8は、21自治会ごとの期限内回答率と、川越地区の主な道路、および鉄道を示したものである。この図からは、一番街の南部分を有する地区と、北部分の西側に隣接する地区のみで期限内回答率が40%を超えていることが分かる。また、比較的北側の地区で回答率が高くなっていることが読み取れる。これは、地区の人々の主な移動の目的地が、鉄道駅、あるいは東京方面のように南方にあることが関連していると考えられる。南方向に向かう場合、一番街の南側の地区よりも北側の地区の人の方が、一番街の交通の影響を受けやすくなり、このことが北側の地区に住む人により回答行動を促す作用を持ったことが考えられる。

(3) 地区の回答率と反対意見率の関係

次に、地区ごとの回答率と対策案への意見との関係について見ていく。自治会ごとに、期限内回答率と5つの対策案への反対意見率についてそれぞれ単回帰分析を行うと、全体としてもっとも賛成意見が多かった「休日のみ歩行者天国」案について回帰係数が有意となった ($p=0.00$, $R^2=0.67$)。また、「休日のみ歩行者天国」案について、督促回答率と督促後回答者の反対意見率についても回帰係数が有意となった ($p=0.00$, $R^2=0.35$)。すなわち、期限内回答者・督促後回答者共に、地区ごとの回答率と反対意見率には正の相関がみられた (図 9)。

6. まとめ

観光都市としての問題を抱える地区における交通対策に対するサイレント層について検討した。その結果、サイレント層は非サイレント層と比べて現状を悪く認識していない可能性があること、そして調査の回答率に地理的な影響があること、地区ごとの回答率と施策への反対意見率に相関関係があることが分かった。

今後の課題として、社会実験として実際に施策を経験

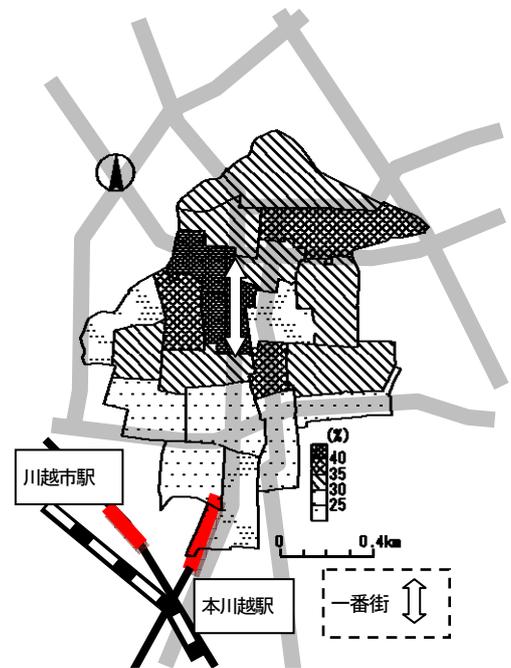


図 8 地区別期限内回答率

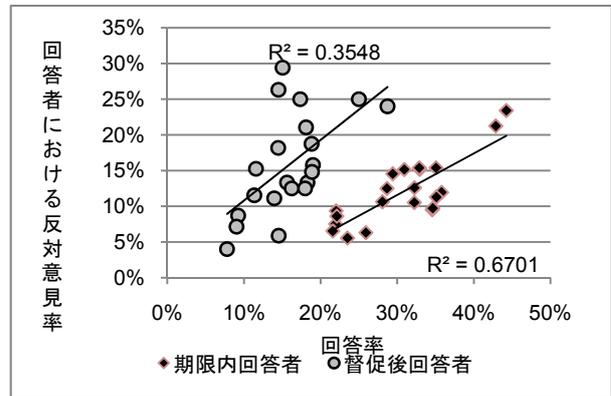


図 9 地区別回答率と休日のみ歩行者天国案への反対率の関係

した後、サイレント層のような意見を持ち、どのような回答行動をするかということが挙げられる。

謝辞

本研究は川越市との共同研究による調査に基づいている。ここに深く感謝の意を表明する次第です。

参考文献

- 1)小嶋文, 久保田尚, 崔正秀, 大和谷敦史, 坂本邦宏: 地区交通計画におけるサイレント層の意識構造に関する研究, 土木学会論文集D, Vol. 63, No.2, pp.203-215, 2007.
- 2)小嶋文, 久保田尚: 調査主題への関りから見たサイレント層の生成と特徴, 土木学会論文集D, Vol.64, No.3, pp.367-379, 2008.
- 3)久保田尚: 歴史的地区における交通問題とその対応, 新谷洋二編著, 「歴史を未来につなぐまちづくり・みちづくり」、pp. 104 - 140, (株)学芸出版社, 2006.
- 4)高橋洋二・久保田尚: 鎌倉の交通社会実験・市民参加の交通計画づくり-, 勁草書房, 2004.
- 5)川越一番街オフィシャルウェブサイト